

平成26年度 田奈小学校 学力向上アクションプラン

1. 学力調査等からの実態把握

本校では、ほとんどの児童が落ち着いて学習に取り組んでいる。しかし、中には支援を必要とする児童もいる。支援が必要な児童については、特別支援委員会を中心に全職員で共通理解を図り対応に当たっている。地域と学校との連携はよくとれていて、学校の行事に地域の方が惜しみなく協力してくれたり、地域の行事に教職員が協力したりする体制がよくとれている。読み聞かせや英語のサポーター等、多くの場面で、地域の方々から支えられている。教員は授業改善に向けて意欲をもって取り組んでいる。経験の浅い教員もよく努力している。今後も個人の努力を続け、学校としても組織的に経験の浅い教員の指導技術を高め、現状に満足せずに研究研修の機会を設け、教員全員の授業力向上に向けた取組みをしていく必要がある。

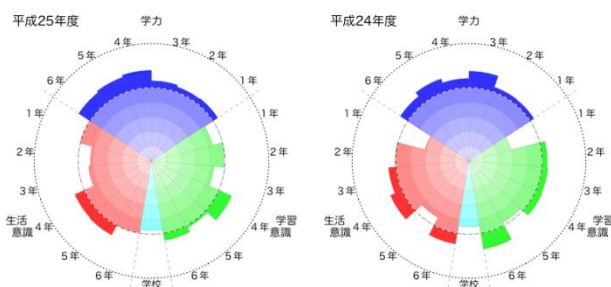
2. 今後3年間の方向（中期学校経営方針）

学力向上に関する指導の目標・方針（平成27年度末の姿）

- ア 毎時間の指導目標を明確にし、振り返りにより指導法を工夫改善し、基礎基本が定着するようにします。
- イ 毎週1回の朝の読書活動や月1回程度の読み聞かせの活動により、本に親しみ豊かな言語感覚を高めるようにします。
- ウ 基礎基本の習熟を図るために、繰り返しドリル学習を行います。
- エ 学校で作成した家庭学習プリント（ぐんぐんプリント）等を活用し、家庭学習の定着を図ります。

3. 横浜市学力学習状況調査等からの平成26年度の実態把握

（1）学力の概要と要因の分析



学力については、標準得点で言うと、市の平均通過率よりもすべての学年すべての教科で、1から10ポイントほど高い結果であった。標準得点を24年度と比べると25年度は、低学年はほぼ横並びであるが、高学年になると、伸びが大きくなる傾向にある。24年度との比較で気になる点は、低学年における学習意識の低下ある。特に新3年生の学習意識の低下が顕著である。

（2）経年変化の状況と要因の分析（学習・生活意識調査も含めて分析）

各教科の観点別領域別通過率を見てみると国語では、「言語事項」よりの「書くこと」「読むこと」に課題がある。昨年度に引き続き、説明文で段落相互の關係に注意して文の組み立てを理解したり、要旨をとらえたりすることや物語文で登場人物の信条や場面の情景を読み取ったりしていくことをできるよう指導していく必要がある。算数においても、国語と関連して、問題が解けるだけでなく、なぜそうなるのか、立式の意味や計算の仕方の説明ができることを大切に指導していく必要がある。社会、理科も同様で、事実や事象から分かることを考えるなど、関連付けて考えたり、多面的に考えたりする思考力・判断力・表現力を大切にした学習を展開していく必要がある。

4. 平成26年度 具体的方策

基礎基本の定着と課題解決学習の充実（平成26年度目標）

（1）授業力向上への取組み

ア 課題解決学習の具現化

- ノート指導、交流活動の充実
自分の思考したことを根拠をもって書くノート指導、それを基にした話し合い活動の位置付け。
- 読む力、言語感覚の充実
毎週1回の朝の読書活動や月1回程度の読み聞かせの実施。
- 基礎的・基本的な知識・技能の習得
繰り返しドリル学習を行い、漢字の読み書き四則計算など基礎基本の習熟を図る。
- 研究・研修の充実
国語を重点的に取り上げ、その指導法の研究。年間一人1回以上の「研究授業」を実施。
ICTを生かしたわかりやすい授業の研修

イ 個に応じた指導の充実

- 「横浜版学習指導要領」の「補充的・基礎的・発展的指導内容」の活用による学力向上。
休み時間や空いている時間などを利用した個別指導。
- 特別支援教育の充実
発達障害等のある児童への授業における指導・支援の研修。
個に応じた取り出し授業の実施（保護者の承諾のもと）。

（2）学校組織としての取組

ア 課題解決学習の具現化

- 学習の基盤となる躰、学習規律の形成
全児童の挨拶、返事、話の聞き方の徹底。
- 学年研の充実
学年研における、各教科の教材研究などを通じた授業力向上のための研修時間の確保。

イ 個に応じた指導の充実

- 算数TT指導（少人数指導）での、個に応じた指導の充実。

ウ 研究・研修体制の構築

- 研究・研修時間の確保
会議の統合や廃止等による学年研や研究・研修時間を確保。
- メンター研修の充実
新任から5年間の校内初任者研修の実施。

エ 学校と家庭・地域の連携

- 家庭学習の習慣化
家庭と連携し、はまっこ学習ガイド、はまっ子家庭学習応援BOOK等を活用し、家庭での基本的な生活習慣や家庭学習の習慣が身に付くような支援の実施。
- 学校評価の充実
様々な場面で保護者の思いを受け止め、学校と共通理解をもった学校運営を実現。

学力向上アクションプランの検証と授業評価・学校評価

- 横浜市学力・学習状況調査
- 授業評価（年8回）
- 教育懇話会（年2回）